

カンフォロ Canforo

カンフォロとは？イタリア語で「くすのき」を意味します。
愛媛県美術館の中庭に立つ3本の大きなくすのきにちなんで名付けられました。

Topics すすめ!! SNS 隊!

いいね・フォローが励みになります。
是非フォローをお願いします!



当館ではX、Facebook、Instagramを通じて情報発信を進めています。当館の魅力や内部のことを迅速にお伝えできるように主に2人の職員が館内を走り回り撮影や投稿に励んでいます。多くの公立美術館と同じように広報のみを専門とする職員はおらず、他の業務と並行しながらの発信です。

Facebookには2016年、X(旧Twitter)を2020年、そして2023年にInstagramを開設し、トレンドや表示の仕様や操作方法の変化に戸惑いながらも、広報事業の一部として細々と続けています。昨年開催した「愛媛アートブックマート#3」のアンケートによると、多くのお客様がInstagramをはじめとするSNSからイベントの情報を知ったということです。このことから分かるようにSNSは今やなくてはならない情報収集の手段となっています。タイムラインに当館の情報が流れることで、愛媛県美術館が皆さんの生活の中に入り込むチャンスが増えたとも言えるのかもしれませんが。

SNSでは、開催する展覧会のご紹介や、たくさんのワークショップ・イベントの宣伝、新しいグッズのお知らせ、ご来館に関する情報のアナウンスなど、日々多彩な情報をお届けしています。多くの情報を正確にお伝えするため、投稿内容は館内でしっかりとチェックを行っています。迅速な発信と丁寧な情報提供の両立は容易ではありませんが、日々工夫を重ねながら、より良い情報発信を目指して取り組んでいます。

作品や美術館のことをいつも見ているからこそ、お届けできる視点もあると思いますが、逆にお客様と同じ新鮮な目線も失わないように心がけたいところです。ソーシャルメディアを取りまく潮流が今後どのように変化していくのか予測は難しいですが、試行錯誤をしながら、愛媛県美術館をもっと好きになってもらえるような投稿をしていきます!(金成 めい・宇野 茉莉花)

工夫していること

金 成: 撮影では画面名一杯に対象を入れるようにしています。展示室では額が反射してしまうので難しい…。
宇 野: 展覧会やイベントに関する投稿では、必要な情報が一目でわかるよう、簡潔な文章を目指しています。



思い入れのある投稿

金 成: 2025年のお正月に投稿した非水図案年賀状(巳)。想定より伸びて、非水デザインのかつよさが広まった気がして嬉しかったです。

宇 野: 2025年7月投稿の「谷川俊太郎 絵本★百貨展」グッズ紹介。映えを狙い灼熱の展望ロビーで撮影。汗だくになったけど、良い画が撮れたのでヨシ!



ロバ、メキシコに行く

当館では1998年の開館に向けて、安井曾太郎や中村彝ら近代洋画史を代表する作品を収集しました。メキシコの美術教育に尽力した北川民次(きたがわ・たみじ/1894-1989)の巡回展「北川民次展 メキシコから日本へ」にお貸出した《ロバ》(1928)もそのひとつです。大変嬉しいことに本作は、この展覧会図録の表紙絵にも採用されました。そして昨年、この本を手にしたメキシコシティ博物館の学芸員、Francisco Berzunzaさんから、「拒絶」をテーマに企画していた展覧会「Columna Rota」(2025年11月8日～2026年3月1日)に、出品して欲しいとのご相談を受けました。

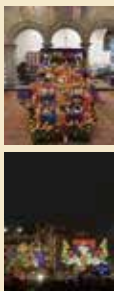
中米への作品貸出は当館初のことで、12時間以上のフライトも含めて、当館のロバが元気で安全に旅をできるのか、作品や額の状態を入念に確認し、何度も先方や美術輸送業者と調整を重ねました。文化や言語の違いに難しさを感じながら、それでも実現に向けて前進できたのは、今から約100年前に、この作品をメキシコで描いた北川民次が生きていたならば、きっと同地の人々に作品をみて貰いたいと考えるだろう、との思いがあったからです。沢山の方々のお借りして、死者の日を目前に賑わうメキシコシティに二匹のロバと一緒にたどり着きました。現地で温湿度を慣らすシーズンング後、展示場所や手法の最終確認をし、無事に壁面に展示された後、涙するFranciscoさんや現地の皆さんと握手をしながら、長い調整の日々と旅が報われたようでした。

そして、船で何日も旅する時代、遠いメキシコで画家として制作をするだけでなく、現地の子どもたちに絵を描くよこびを知って欲しいと活動した民次の気持ちに少し近づけた様な気がしています。お蔭様で現地でも民次作品への関心は高く、会期も延長されました。作家が思いを込めて描いた作品が、時代や国を力強く越えていくことを、実感する機会にもなりました。この大冒険から帰国したロバを、またここ愛媛で皆さんにもご覧いただきたいと思います。(喜安 嶺)

「Columna Rota」

Museo de la Ciudad de México
(メキシコシティ博物館)

2025年11月8日(土)～
2026年3月1日(日)



Estados Unidos Mexicanos

つぶやき



昨年から展示案内等業務員として美術館に参りました。勤め始めてから「展示室のすみっこで座っとる人よな?」とよく聞かれます。その通りですが、手元の歩数計によると展示案内員の業務をする1日は1～2万歩。「私は展示室のすみっこを歩き回るとる人なんよ。」(上田 つばさ)

つぶやき



今年度の4月から美術館で働いています。美術館が「展覧会を観に行く場所」から「働く場所」となり、たくさんの人が関わって展覧会がつくられていくなかに自分も関わっていることを嬉しく思います。来て下さった方に楽しんでいたできるように頑張りたいと思います。(松本 美香)

真鍋博展インタビュー

松山城を中心に集う10のミュージアムや文化施設から成る「愛媛／松山ミュージアム・ストリート連絡協議会」が発足10年を迎えました。それを記念し、ミウラート・ヴィレッジ、セキ美術館、愛媛県美術館の初の3館同時開催で、愛媛出身の真鍋博作品をそれぞれの視点で展示する特別企画展示を行いました。今回は3館の担当学芸員に質問をしてみます！

米…米屋公美子(ミウラート・ヴィレッジ学芸員) 関…関厚子(セキ美術館副館長・学芸員) 喜…喜安嶺(愛媛県美術館専門学芸員)



Q1. 今回の展示をとおして、なにか発見はありましたか？

米 ミウラート・ヴィレッジで初めて真鍋博作品を展示させていただいたのですが、真鍋ファンの多さにびっくりしました。「3館めぐって、たくさんの作品をテーマ別に見ることができて良かった！」という来館者の声が本当に嬉しかったです。

関 当館では印刷に焦点を当てた展示でしたが、真鍋作品を通して多くの方に印刷工程に興味を持っていただけたことが、感慨深かったです。印刷物を手に取る時に、携った人たちの思いを感じて頂けたら嬉しいです。

喜 これまでは、作家・真鍋の多彩な表現に圧倒されてきたのですが、今回は自身の作品に関わる人、作品の先にいる受けとる人と思う、人間・真鍋博のあたたかさを感じて、より身近に感じられるようになりました。

ミウラート・ヴィレッジ「真鍋博展～ミライを拓く」
2025年8月24日(日)～10月19日(日)

セキ美術館「真鍋博と印刷会社2」
2025年9月12日(金)～11月24日(月)

愛媛県美術館「真鍋博 カコをみる、イマをみる、ミライをみる」
2025年9月6日(土)～10月22日(水)

Q2. お気に入りの真鍋博作品を教えてください。

米 『超発明』の《上がり底ビン》①です。底の方から中身が減っていくという発想は、1971年の書籍発行時には夢の話でも、今では色々な商品に使われています。自由な発想はものづくりにつながる、ということを実感した作品です。

関 「2000年の年賀状」②です。最後の年賀状ですが、弊社の担当者との手紙や校了までの資料を保管頂いており、大変感謝しています。俳句同人誌の『星』は、祖母が大切にしていた思い出が懐かしく、定期的に手に取り眺めています。

喜 《タイムマシン》③です。本展準備中に、真鍋が、みたことがない過去も未来も表現できる、魅力的なタイムトラベラーだと思いはじめると、操縦席の人物が本人に見えるように！特別な一枚になりました。



①



③



②

オノマトペで楽しむ、みる冒険

じゃじゃーん！6回目を迎えた「みる冒険」。「みる冒険」では、いつもと違った視点、手法を交えて作品を鑑賞し、新たな気づきや、美術の楽しみ方に出会う場としています。

今回の鑑賞の手がかりとなるのはオノマトペ。オノマトペは物が発する音を模したり、状態や様子を象徴的に表した、誰にも分かりやすく、親しみやすい言葉です。言語にしにくい様子や目に見えない心の動きを伝えることができ、五感に近い感覚のことばとも言えます。本展では、鑑賞者に作品に描かれた様子、質感、印象などをオノマトペで表していただき、そして、そのみなさんのオノマトペを重ね合わせ、共感やズレを共有しながら作品を**じっくり**味わっていただきます。

会場で作品をオノマトペで表したり、臨場感あるオノマトペを通して作品を見直したり、作品の違った一面に出会う、**わくわく**する冒険を楽しんでいただければ幸いです。(石崎 三佳子)



白髪一雄「屋島の戦い」1967(昭和42)年

コレクション展Ⅴ

みる冒険 オノマトペで楽しむ
どきどき、ふわふわ、じゃじゃーん

2026年1月27日(火)～4月19日(日)
会場:本館2階 常設展示室3

いしづちさんに登る

2025年は展覧会の準備もあり、石鎚山や面河溪を計5回訪れました。これまで何度も登ったことがありましたが、改めてみるとこれまでおぼろげにイメージしていたよりずっと懐が深く、多くの画家たちが好んで描いたことにも納得です。自然保護とツーリズムの共存を図るエコツーリズムの考え方が、美術品を保存しながら活用する美術館と同じだという気づきも。感謝の気持ちを込めて、大雨の中初めて草刈りボランティアにも参加しました。(杉山 はるか)

コレクション展Ⅳ

石鎚国定公園指定70周年記念
いしづちさん、おかげさまで

2025年10月23日(木)～12月21日(日)
会場:本館2階 常設展示室1



”屏風の居場所“とカフェのタベ Special Night at the Museum

Report

現在、当館で取り組んでいる「文化観光推進拠点事業」の一つとして、2025年11月22日(土)、23日(日)の閉館後に人数限定による特別体験プログラムを実施しました。

まずは、美術館カフェでのお食事を楽しみつつ、学芸員による屏風についてのミニレクチャーを聴講いただきました。その後は、夜の松山城を望む展望ロビーに移動し、松山藩御用絵師・松本山雪の屏風を、ガラスケース越しではなく間近に鑑賞。畳を敷き、行灯照明を設置するなど、本来、屏風が立て回されていた環境を再現することにつとめました。

最後は、隣接する松山城二之丸史跡庭園のライトアップイベント「光の庭園」へご案内。普段は体験できない特別な「ナイト・ミュージアム」、今後も魅力的なプログラムとして定着できればと思っています。(長井 健)



開館27周年記念イベント

Report

今年は「美術館で楽しむ秋」をテーマに、コレクション展無料開放、ワークショップ、レクチャーなどを2025年11月30日(日)に実施。さらに、オリジナル絵柄のアイシングクッキー(製造:しのめハウス)も登場しました!

「朗読会 石鎚を聴く」では、畦地梅太郎や河東碧梧桐による随筆を、俳優の岩淵敏司さんによる朗読で味わいました。参加者の方に、壇上で朗読に参加していただく時間もあり、和やかで楽しい時間となりました。プログラムの途中、岩淵さんから朗読に関する3つのコツの伝授が。それは、①愛をもって表現する(聞き手のことを思いやる)、②他の人が書いた文章を読んでいることを忘れない(我が物顔で読まない)、③朗らかに読むこと。他者の書いた文章を、自分の声で表現する難しさと面白さが、3つのコツに詰まっているように感じます。

28年目を迎えた愛媛県美術館も引き続きよろしくお願いいたします!(岩本 成美)



デジタルアーカイブ・コトハジメ

Topics

昨年度から徐々に公開を始めた「所蔵作品データベース」はもうご覧になりましたか? 作品情報と画像の公開はピピッと! とスムーズな作業をイメージしていたのですが、内部・外部各所への確認作業を慎重に行っていることもあり、牛歩の歩みでデータ登録が進んでいます。特に大変だったのは「名寄せ」。同一人物でも異なる表記で登録されているとデータが重複してしまうため統一する必要がありました。旧館時代を含めると50年もの歴史がある当館は、作家さんをはじめ、本当に多くの人たちと関わってきたのだなと感慨深くなる作業でした。まだまだ完全登録までの道のりは長いですが、デジタルアーカイブを皆さんにたのしく活用してもらうための提案をすることが目標です! 杉浦非水デジタルアーカイブもあわせてご利用ください!(金成 めい)



所蔵作品
データベース



杉浦非水
デジタル
アーカイブ



美術館HP

編集後記

美術館による広報活動はその重要性に対してあまり時間もお金もかけられず、難しい分野の一つだと思います。人々の情報収集の方法がどんどん変化の中で、Canforoはどんな役割を担うべきなのでしょう。(金成めい)